

オペラ研究履習生公演

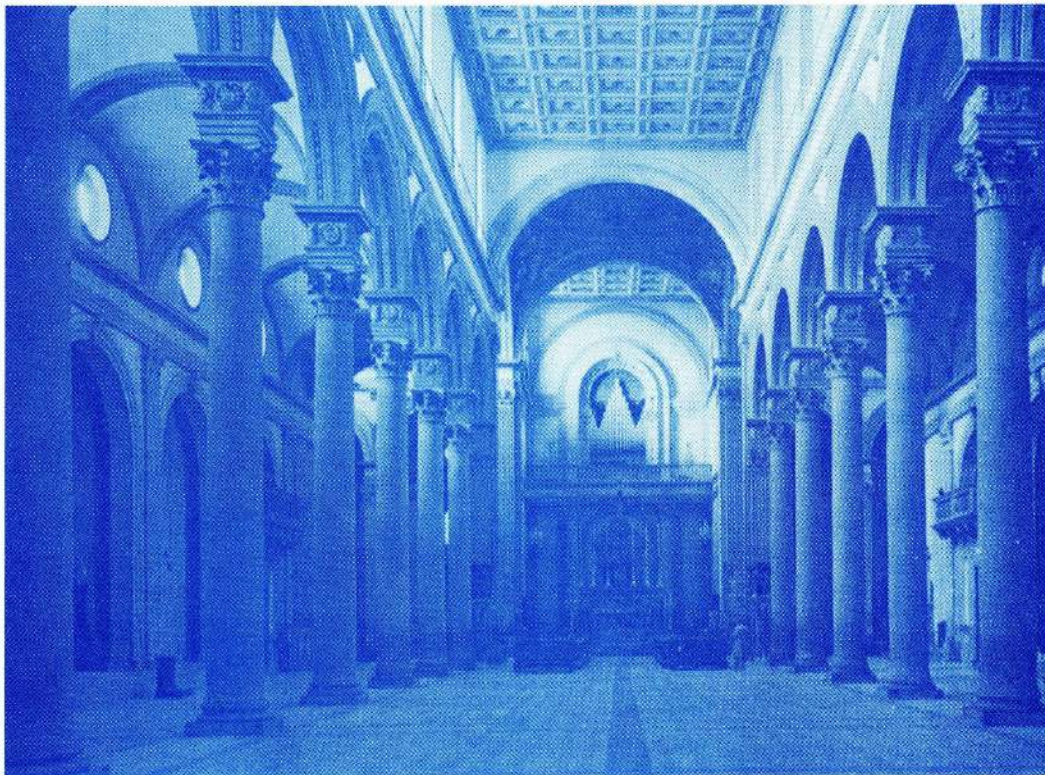
『修道女アンジェリカ』

『ジャンニ・スキッキ』

G. プッチーニ作曲

井上善策 訳

青空 紺 訳



1983年**10**月**18**日【火】

10月**19**日【水】

開場 5:30P.M. 開演 6:00P.M.

日 仏 会 館

主催 学校法人 尚 美 学 園
尚美高等音楽学院(声楽部会)

G. プッチーニ 作曲

『修道女アンジェリカ』

台本 G. フォルツァーノ

訳詞 井上善策

『ジャンニ・スキッキ』

台本 G. フォルツァーノ

訳詞 青空 紺

指揮	坂本和彦	演出	井上善策
演技指導	角丸 裕	美術	佐藤哲夫
照明	西島竹春	舞台監督	田中伸明

副指揮＝金井誠・杉山雅彦 照明＝川本舞台照明 衣裳＝京都衣裳
小道具＝高津装飾 かつら＝丸善かつら 舞台助手＝小野寺佐恵
演出助手、長島史枝、齊藤美幸、



指揮：坂本和彦

木更津高校、東京音楽大学指揮科卒業。三石精一氏に師事。チューリッヒ・コンセルヴァトワール指揮科、同地歌劇場にて4年間、オペラ、宗教音楽をF. ライトナー、F. エーゲルマン、演出論をG. ケーゲル氏より学ぶ。

この間、エーゲルマン氏のアシスタントとして劇場等で合唱指揮、副指揮をつとめる。現在、尚美音楽短期大学、同学院講師。日本オペラ振興会オペラ研究生アンサンブル指揮者。東京声専オペラ科講師。



演出：井上善策

東京芸術大学大学院修了。サンタ・チェチリア音楽学校修了。「売られた花嫁」「ボッカチョ」「ペリコール」「蝶々夫人」「修善寺物語」「俊寛」等数多くのオペラに出演。リサイタルや第九のソロ等多くのコンサートにも活躍。又、「夕鶴」「釣り女」「鬼と女房」「あまんじゃくとうりこ姫」「カルメン」を演出し、来春3月に「カバレリアルスチカーナ」「パリアッチ」の演出が決っている。

現在、日本オペラ協会運営委員。尚美高等音楽学院専任講師。



演技指導：角丸 裕

東京芸術大学声楽科卒業。渡辺高之助氏、ロドルフォ・リッチ氏に師事。尚美学園講師をするかたわら各地で演奏活動を行う。1977年ウィーンに留学。リリー・カラー女史、オットー・ペッヒャー氏に師事。滞○中ウィーンにてコンサート出演。1980年札幌、東京にて帰国記念リサイタルを行い、以来スプリング・オペラコンサート、サマー・オペラコンサート、東京ゾリステンとカンタータ(バーム)協演。オペラ「つばめ」「鐘」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「ボッカチョ」長門美保歌劇団「チャルダッシュ姫」(本邦初演)等に出演。尚美高等音楽学院専任講師。尚美音楽短期大学講師。

—キャスト—

『ジャンニ・スキッキ』

18 日

19 日

桑原啓郎	ジャンニ・スキッキ	桑原啓郎
斉藤美幸	ラウレッタ (ジャンニの娘)	広吉明子
伊地知祥子	ツイータ (ブオーゾの従妹)	折茂秀子
松下武史	リヌッチョ (ツイータの甥)	千代崎元昭
森本誠泉	ゲラルド (ブオーゾの甥)	伊東正隆
三浦圭子	ネッラ (ゲラルドの妻)	安富順子
田中博美	ゲラルディーノ (ゲラルドの子)	田中博美
長谷部守俊	ベット (ブオーゾの義兄)	長谷部守俊
藤野祐一	シモーネ (ブオーゾの義弟)	藤野祐一
堀部一寿	マルコ (シモーネの子)	堀部一寿
池田朋子	チェスカ (マルコの妻)	一戸徳子
山口 誠	スピネロッチョ (医 者)	山口 誠
江副謙一	アマンティオ (公証人)	江副謙一
元吉秀行	ピネッリーノ (靴 屋)	元吉秀行
浅野繕弘	グッチョ (染物屋)	宮崎裕明

●ピアノ：徳島純子
渡辺一史

『修道女アンジェリカ』

18 日

倉林晶子
嘉手川藤子
蓮沼律子
波多野条子
比屋根利恵子
伊藤裕美子
加藤恵美子
佐々木祥衣
長島史枝
高橋恵子
斉藤桂子
斉藤京子
常見幸代
高内智子

アンジェリカ
公爵夫人
修道院長
修女長
修練長
ジェノヴィエツファ
オスミーナ
ドルチーナ
看護係修女
托鉢修女
托鉢修女
修練女
無品級修道女
無品級修道女

19 日

坂野多己子
関根雅子
蓮沼律子
石川幸子
茅根 潮
丸山章子
重松雅子
宮沢直子
石橋裕子
高橋恵子
斉藤桂子
祝 佳子
柴田美加
高内智子

修道女たち(両日)

阿部千恵 中野正美 中林由美 広瀬公重
渡辺淑子 小島久枝 須藤朱美 名城洋子
満田泰代 加藤玲子 中野由紀 山口泰子
小野佐加恵

●ピアノ：松本節子
辻 悦子



ジャンニ・スキッキ……………桑原啓郎(バリトン)

東京芸術大学声楽科卒業。岡崎実俊、原田茂生、中岡房子の諸氏に師事。卒業後、藤原歌劇団「セヴィリアの理髪師」のフィオレロでオペラデビュー。「ボエーム」「ジャンニ・スキッキ」「黄金の国」などに出演。1979年渡伊。声楽をジャンニ・ボッジ、ジョルジョ・ロルミ、アンナ・マリア・ファヴィーニの各氏に師事。1981年パルマ音楽院卒業。その後、パルマに於いてオペラ「リビエッタとトラッコロ」で好評を得、オペラ「音楽教師」と共に、マントバ、モデナ、クネオ、ミラノで歌う。又、ヴェルディ死後80周年記念コンサートで「レクイエム」(フォーレ)のバリトン独唱を歌うなど各地でコンサートに多数出演。1981年、第24回パルマ国際声楽コンクール日本代表審査員を務め翌年帰国。尚美高等音楽学院専任講師。



リヌッチョ……………松下武史(テノール)

東京芸術大学卒業。同大学院オペラ科修了。在学中「修禅寺物語」「魔笛」「仮面舞踏会」「リゴレット」などのオペラに出演。その後《こんにゃく座》にて「あまんじゃくとうりこ姫」「おこんじょうるり」「白墨の輪」等に出演。オペラ以外にも、第九やカンタータ「脱出」等のソロとして活躍している。第18回日伊コンコロソ1位入賞。鷲崎良三、平間文寿、ロドルフォ・リッチの各氏に師事。尚美高等音楽学院専任講師。



シモーネ……………藤野祐一(バリトン)

東京芸術大学卒業。同大学院オペラ科修了。原田茂生、高橋修一の諸師に師事。芸大オペラ「婚約手形」のノートン、「修禅寺物語」の僧に出演。1975年より東京オペラ・プロデュース公演の「燃えろ炉」「放蕩息子」「セヴィリアの理髪師」「カプリッチョ」などに出演。又、日本オペラ協会では「安寿と厨子王」に出演している。その他、「ヘンゼルとグレーテル」「電話」「アメリカ舞踏会へ行く」など、数々のオペラに出演している。尚美高等音楽学院講師。

本日は御忙しい処おいで下さいまして、誠に有難うございます。

オペラ・ゼミでは、昨年度迄は学院祭の行事の一環として、その研究の成果を発表して参りましたが、今年ここに、オペラ・ゼミとしての公演を開く事が出来、学生一同こうした演奏の場を与えて下さった事に感謝すると共に、その責任に於いても日々練習に励んで参りました。

オペラは音楽上のアンサンブルにとどまる事なく、演技との一体化、美術・照明との調和といった広い意味でのアンサンブル芸術です。と同時に、チームワークを保ちつつ演者として「個」の部分をも生かして行かなくてはなりません。音楽稽古に始まって、演技練習、更に細かな決まり事の徹底……といった様に、オペラは一朝一夕で築けるものではありません。そういった意味からも、夏合宿をも含めて、毎日の様に熱心に御指導下さった諸先生方をはじめ、御協力戴いた各方面の方々に厚く御礼申し上げます。

まだまだ未熟な点が数多くある事とは存じますが、御来場下さった皆様方に少しでも満足して載ける舞台となります様、一生懸命演奏致します。どうぞ最後迄、ごゆっくりとお楽しみ下さい。

オペラ・ゼミ一同

『修道女アンジェリカ』

17世紀も終り頃の女子修道院。アンジェリカは由緒あるフィレンツェ貴族の娘だったのだが、ふとした過ちから子供を産み、その罪を償うために修道院に入れられたのである。

やがてミサが終って、礼拝堂から修道女たちが出て来る。修道女長が訓戒を垂れた後、修道女たちに休息の時間を与える。アンジェリカは薬草に詳しいので花壇の手入れをするが、そのうち修道女たちは、様々なこの世の欲望について話し始める。ジェノヴィエッファは羊飼いだっただ頃のようにもう1度小羊を抱きたいと言い、ドルチーナは食いしん坊であることを皆からからかわれる。アンジェリカは何の欲望も持っていないことを口にするが、修道女たちは、アンジェリカがもう7年もの間、家からの便りを待っていることを知っている。

そこに托鉢に回っていた2人の修道女が戻り、様々な食料品を見せるので、ドルチーナは大喜びする。托鉢の修道女は、今修道院の前に立派な馬車が止っており、きっと誰かに訪問客があるだろうと一同に告げる。修道女たちは皆期待に胸をふくらますが、院長が現われて訪問客がアンジェリカのもとを訪れたことを告げるので、一同は立ち去って行く。

アンジェリカを訪れたのは伯母の公爵夫人であった。アンジェリカの妹が結婚することになったので、その財産分与の書類にアンジェリカのサインを求めに訪れたのである。老夫人はアンジェリカのかつての行いを非難し残して来た子供がすでに2年前病死してしまったことを告げる。アンジェリカは余りのことに茫然としてしまう。

老公爵夫人が去った後アンジェリカは「母もなくお前は死んでしまったのね」とアリアを歌い、悲しい母親としての気持を吐露する。やがて修道女たちが現われ、アンジェリカと共に神への讃美を歌いながらそれぞれの部屋に去る。アンジェリカは薬草園から草を摘むと、それで毒液を作る。そして神の加護を祈りながら飲み干してしまい、やがて息を引き取っていく。

『ジャンニ・スキッキ』

時は1299年、所は花のフィレンツェ。

ここは大金持のブオーゾ・ドナティの家である。つい先程、そのブオーゾは息を引き取ったばかり。彼の遺体の横たわるベッドの回りには親類一同が集まり、声を張り上げている。泣いているふりをしているが、その実、ブオーゾの莫大な遺産を我がものにしようと、お互いの顔色をうかがっている。しかし、遺産が全部修道院に寄付されるという噂があることを聞き、一同は嘘泣きをするどころではなくなる。そこで長老のシモーネとツイータを中心に一同は遺言状を捜すことになる……。

とうとうツイータの甥リヌッチョが遺言状を発見する。やはり噂は本当だったのだ!!

リヌッチョは遺産が手に入らないと、恋人ラウレッタとの結婚が許されないので気落ちする。その時ふと思いつき、ラウレッタの父ジャンニ・スキッキに相談しようと言い出す。が、一同は皆スキッキのことが大嫌いなのだ。

さてそのうちスキッキとラウレッタが現われる。スキッキは遺言状を読み、どうしようもないことを悟り、帰ろうとするが、ラウレッタが「私のお父さま」と呼びかけ懇願する。

さて可愛い娘の願いを聞き、ジャンニ・スキッキのこうじた策はいかに……。